

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1110 2012年9月号

第38回

四国林政連絡協議会開催

9月6日、愛媛県庁において、四国森林管理局と四国4県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、第38回四国林政連絡協議会を開催しました。(詳細は2頁)



第38回四国林政連絡協議会

四国林政連絡協議会を開催

〈企画調整室〉

九月六日、愛媛県庁において、四国各県の林務担当部局、(独)森林総合研究所四国支所、同林木育種センター関西育種場、同森林農地整備センター中国四国整備局参加のもと、林野庁から担当官の出席を得て第三八回四国林政連絡協議会を開催しました。

開会にあたり会長の新木四国森林管理局長から「この協議会は、四国地区における民有林行政と国有林野の管理経営との連携強化を図り、森林の適正な整備及び林業・木材産業の振興に資することとしており、こ

の協議会を機に、今後とも、

ご参加の各構成機関とより一層連携を深めながら、森林・林業等の課題について意見交換、情報交換等を行い、今後の方向を見定めていきたい」と挨拶がありました。

次に開催県である愛媛県の浅野森林局長と林野庁計画課箕輪企画班担当課長補佐から挨拶がありました。

続いて、「四国山の日賞」選定団体の報告・審議、林野庁から森林・林業を巡る最近の動きについての説明が行われました。その後、

各機関から国産材の利用拡大、森林吸収源対策、四国J・V・E・R制度等についての取組状況や、森林総合研究所における林業再生に資する各種研究事例や国有林との連携の状況について説明があり、これらの説明に関して各機関からは活発な意見や要望が出され、有意義な意見交換が行われました。



四国林政連絡協議会会長挨拶(新木局長)

防災訓練を実施

〈企画調整室〉

九月三日、四国森林管理局において、南海地震が発生した場合を想定し、防災体制の確立及び災害対応能力の向上を図ることを目的とした防災訓練を実施しました。当日は局長、三部長を始め、各課長等の幹部が参加し、午前七時に四国沖を震源とするM8.4の地震が発生したとの想定で、非常参集訓練を行いました。参加者からは「日常的に地震に対する危機感、防災意識を持つことが重要」、「地震発生後における初動体制が重要だと実感した」、「自分のやるべき役

目等を確認できた事は有意



対策本部設置後、図上訓練を行っている様子

義」等の意見がありました。局での津波対策等を踏まえた防災訓練は今回が初めてで、この結果を踏まえ次回の防災訓練や対策に活かすこととしています。

「第一回国有林モニター勉強会」を開催

〈企画調整室〉

七月二十七日、高知県高岡郡中土佐町にある四万十森林管理署管内の国有林において、平成二四年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は好天に恵まれ、四国四県から国有林モニターの方一六名が参加されました。

開会にあたり新木四国森林管理局長から「実際に森林の状況を見て感じていただき、国有林の取組について理解を深めていただきました。」との挨拶がありました。

最初の見学地では間伐材を搬出する森林作業道に入

り、周辺の国有林を眺望しながら、国有林の特徴、林齢や樹高の異なる樹木から構成される複層林造成箇所についての説明を行いました。



国有林を眺望し、特徴を説明

その後、間伐事業実施箇所へ移動し、森林整備事業の概要や架線集材、高性能林業機械について見学しました。当日になって故障してしまった高性能林業機械のハーベスタが稼働しているところは見ることができませんでしたが、架線で間伐材を集材し、グラップルで資材整理するところを見ることができました。

その後、魚の生息や繁殖を助ける魚つき保安林に寄り、保安林についての理解を深めました。

今回の勉強会に参加したモニターの方々は、複層林等の多様で健全な森林へ誘導していく森林整備、人工林の間伐事業箇所における高性能林業機械や間伐材の活用の取組、また、保安林

について、実際に国有林に足を運んだことにより理解を深められた様子でした。当日は大変暑い中でしたが、説明を熱心に聞き、活発に質問や意見を述べられていました。



グラップル作業の見学



『親子ふれあい木工教室』開催

く小枝等で作る

「壁掛け」と積み木教室

〈指導普及課〉



八月二四日、公募による親子一九組、四五名が参加した「夏休み親子ふれあい木工教室」を、四国森林管理局において実施しました。

この木工教室は、夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、オイスカ高知県推進協議会との共催で、例年、夏休み期間中に小学生とその保護者を対象に開催しています。

前半は、当局の森林環境

教育と木工教室を実施し、森林の役割や森林からの恩恵について、参加者に質問しながら森林教室を行いました。



木工作業中

準備段階では見本と同じ数のパーツを準備はしましたが、子供たちの個性は炸裂、夢のある作品が完成。

続いて、森林整備等で発生した広葉樹の小枝などを悪戦苦闘。しかし、所定の時間内に見事に完成しました。

使って『壁掛け』製作に取りかかりました。今年、二種類の見本を用意し、受付で作りたい作品を選んでもらうこととしました。

見本を参考にオリジナルの作品を作ったが、細々としていました。細かなパーツが幾つもあり、子供たちはその色塗りに悪戦苦闘。しかし、所定の時間内に見事に完成しました。

どれもすばらしい大作でした。当局の木工教室の後は、オイスカスタッフと海外研修生が先生になり、積み木教室を行いました。



積み木はどこから来たの？

子供達は、先生のお話を聞いた後、広い真っ赤な絨毯の上で、保護者も交えて積み木遊びにそれぞれが夢中に取り組みました。上へ上へ高く積み上げる過程がありました。

最後に、みんなが組み上げた積木はどのように出来たかなど、オイスカスタッフが順を追って丁寧に説明すると、子ども達は森林整備のために木を伐ることの大切さを知り楽しい一日を

